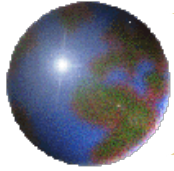


これまでの気候変動交渉の経緯

2013年7月2日

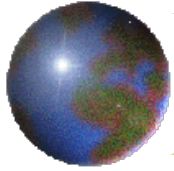
地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）

国際交渉担当 土田道代

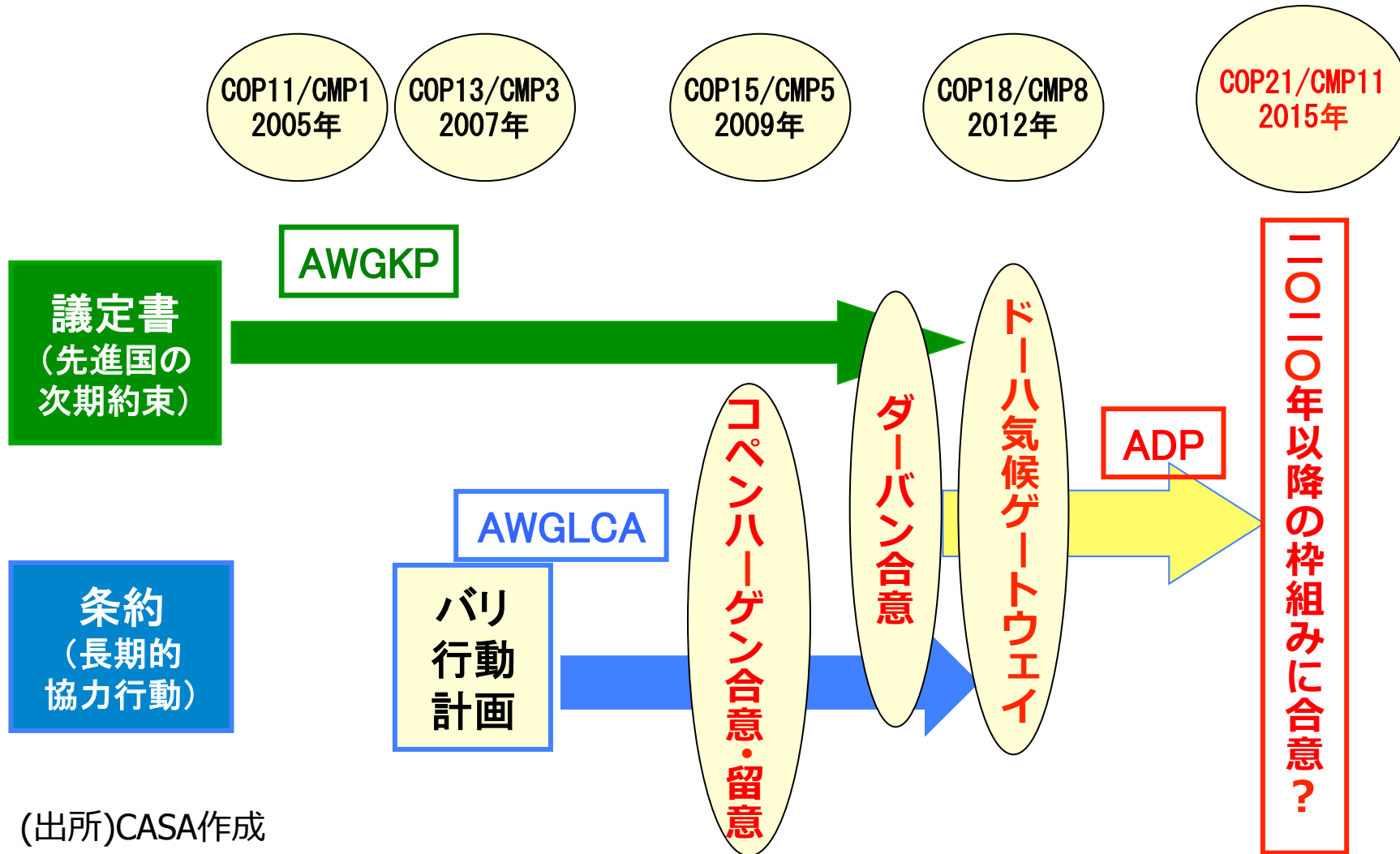


国際交渉の経緯

- 1992年 気候変動枠組み条約に合意
- 1995年 COP1：ベルリン・マンデートを採択
- 1997年 COP3：京都議定書を採択
- 2001年 COP7：運用ルールの最終合意成立
- 2005年 京都議定書発効
- COP11/CMP1：議定書AWG交渉開始
- 2007年 COP13/CMP3：バリ行動計画(条約AWG交渉開始)
- 2009年 COP15/CMP5：コペンハーゲン合意を「留意」
- 2010年 COP16/CMP6(メキシコ/カンクン)
- 2011年 COP17/CMP7(南アフリカ/ダーバン)：ADP設置
- 2012年 COP18/CMP8(カタール/ドーハ)
議定書AWG・条約AWG作業終了、ADPへ一本化
- 2013年 COP19/CMP9(ポーランド/ワルシャワ)

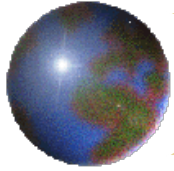


COP18までの経過と今後の道のり



(出所)CASA作成





ADPの交渉経過

ADP1 2012年 5/14-24 (ドイツ/ボン)

- 議長選出やアジェンダ設定で紛糾、交渉に入れず
- 最終日になってようやく合意に達した

ADP1非公式セッション 2012年 8/30-9/5 (タイ/バンコク)

- 非公式であるも、はじめての実質的な議論の場
- 2つのテーマ(WS)に分けてラウンドテーブル形式で

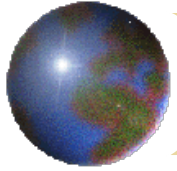
ADP1-2 2012年 11/27-12/7
(カタール/ドーハ)

* COP18と同時開催



(出所) IISD





COP18/ADP1-2(カタール/ドーハ)

□COP決定:Advancing the Durban Platform

➤**ギャップの解消**：2℃目標・1.5℃目標を達成するための排出経路と、2020年までの排出削減目標との大幅なギャップに深刻な懸念を表明

➤**作業計画**：

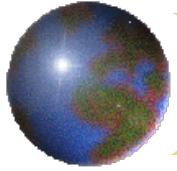
●2013年：2020年までの野心のギャップを解消しうる一連の行動オプションを特定化し、探究

●2014年：その作業計画の更なる行動を特定し、最大限可能な排出削減努力を確実なものにする

➤**交渉文書**：2014年12月、COP20で交渉文書の要素を検討し、2015年5月までに交渉文書の準備を整える

□作業計画(planning of work)を歓迎

➤排出削減の野心レベル引き上げ(shall raise the level of ambition)、特にIPCC第5次評価報告書、2013-2015レビュー結果、SBの作業報告を受ける(shall be informed)



ADP2-1 2013年 4/29-5/3 (ドイツ/ボン)

- 5日間という短い日程でADPのみの開催
- ワークショップとラウンドテーブル形式
- 5/21付 WS1,WS2のインフォーマルサマリー
 - 更なる作業(further work)が必要とされる領域
- 5/22付 インフォーマルノート
 - ADP作業の概観(Big Picture)
 - 各WSにおける共通認識の整理

ADP2-2 6/3-14 (ドイツ/ボン)

- 今回のADP/SBs38と同時開催
- ワークショップとラウンドテーブル形式

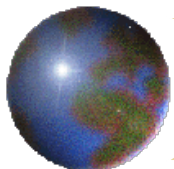
ADP2-3 ? 9/9-13(ドイツ/ボン) 資金がなく開催されない見込み

ADP2-3 2013年 11/11-22 (ポーランド/ワルシャワ)

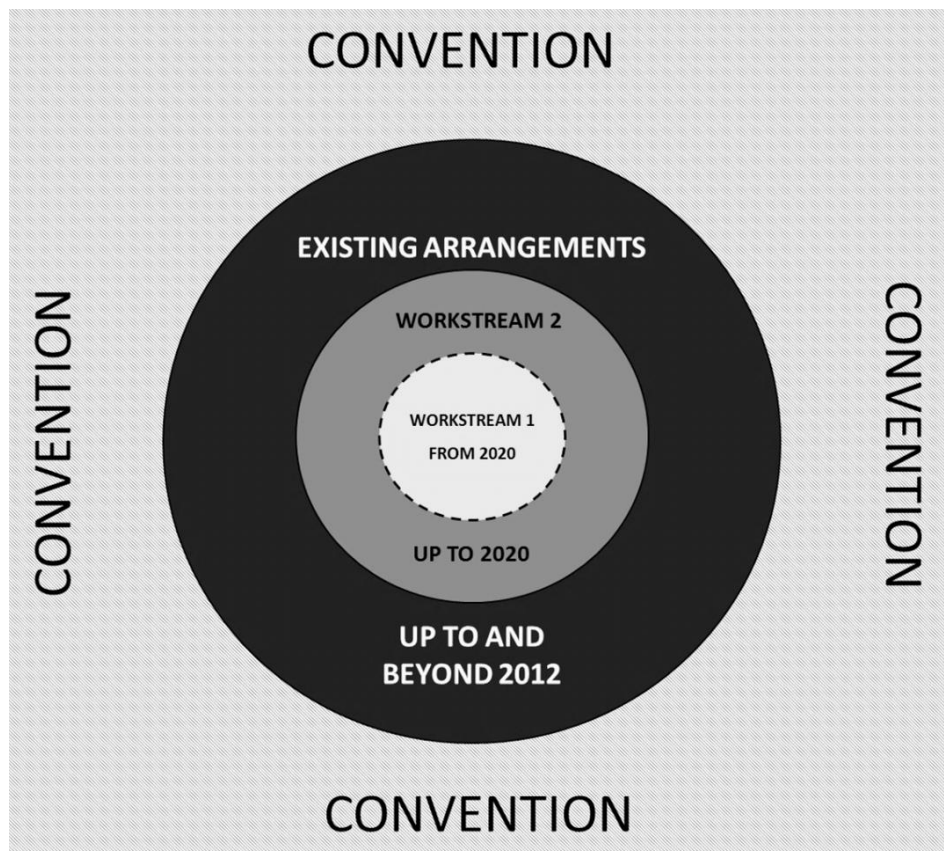
* COP19と同時開催



(写真)CASA



ADPの概観 (“big picture”)



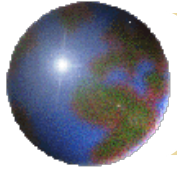
□ four key notions

ADPの作業やその結果は

- (a)条約の下にあり、
- (b)既存のアレンジメントを利用
- (c)WS2は2020年までの排出削減の野心レベル引き上げの必要性に応え、WS1に通報
- (d)WS 1 は2020年以降のアレンジメントを明確にする必要性に応える

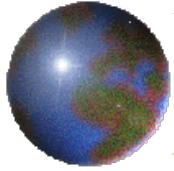
(出所) <http://unfccc.int/resource/docs/2013/adp2/eng/8infnot.pdf> より





多彩な交渉グループ

- ✦ アンブレラ・グループ (Umbrella Group ; 日本、米、加、ノルウェー、アイスランド、豪、NZ、露、ウクライナ)
- ✦ EU (27カ国)
- ✦ G77+中国(132カ国)
- ✦ AOSIS (Alliance of Small Island States ; 44の国とオブザーバー)
- ✦ EIG (Environmental Integrity Group ; リヒテンシュタイン、メキシコ、モナコ、韓国、スイス)
- ✦ BASIC (ブラジル、南ア、中国、印)
- ✦ LMDC (Like-Minded Developing Countries on Climate Change ; メンバーはその都度変化.)
- ✦ AILAC (Independent Association for Latin America and the Caribbean/ Independent Alliance of Latin America and the Caribbean ; チリ、コロンビア、コスタリカ、グアテマラ、パナマペルー)

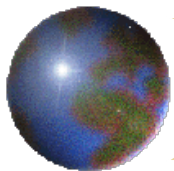


ギガトンギャップ (Giga ton gap)

排出状況	2020年排出量	2°C目標とのギャップ
2°C目標を達成するために必要なレベル	440億トン	
現状推移 (BaU: Business as Usual)	580億トン	140億トン (14ギガトン)
約束されている目標が、最低限の水準で達成された場合	570億トン	130億トン (13ギガトン)
約束されている目標が、しっかりと達成された場合	520億トン	80億トン (8ギガトン)

(出所) The Emissions Gap Report 2012. UNEP よりCASA作成





CAN（気候行動ネットワーク）の活動



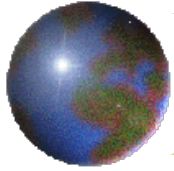
(写真)CASA

□ 90カ国超、850団体で構成

□ 交渉の場で後ろ向きな

発言や交渉姿勢をみせる締約国に「今日の化石賞」

□ ニュースレター「eco」の発行



お問合せ・連絡先

地球環境と大気汚染を考える全国市民会議

CASA

TEL. 06-6910-6301 FAX. 06-6910-6302

E-mail. office@casa.bnet.jp

URL. <http://www.bnet.ne.jp/casa/>

ありがとうございました

